サンケイスポーツ杯争奪戦 ラ・ピスタ新橋カップ FI



10/1(木) 2(金) 3(土) ナイター開催 川崎スポーツ

レース展望

10月1日からの川崎FIナイター開催はサンケイスポーツ杯争奪戦、ラ・ピスタ新橋カップ。S級・A級ともに全国各地から好選手が集まり、連日熱戦が行われよう。

S級戦はホームバンク小原太樹(95期)が出場し、もちろん狙うは地元Vだけだろう。弟子の新村穣(119期)が勝ち上がって来れば展開有利にレースを進める場面は十分で、たとえ目標が不在でもいざとなれば自ら自力発動出来るのがこの選手の強み。知り尽くした当バンクではしっかり好位確保からバック捲りを放つ場面も考えられ、地元の優位さから他地区積極型の番手回りとなる可能性もある。東北では青森の徹底先行小原佑太(115期)・大川剛(121期)が二枚看板で、この二人が連係すれば2段駆けはもちろん十分。他陣営にはかなり脅威になるはずで、タイトルホルダーの山崎芳仁(福島88期)には心強い限り。関東の主力は近況、落車に泣かされている小林泰正(群馬113期)だが、富山共同通信社杯決勝進出で勢いに乗り、自在脚ある雨谷一樹(栃木96期)が後ろに続けば強力ラインが形成される。中近勢からは衰え知らずのベテラン山口富生(岐阜68期)が登場し、捲り脚ある小森貴大(福井111期)や高久保雄介(京都100期)の動きに乗ってS級最年長Vを目指すか。中四国勢は売り出し中の真鍋智寛(愛媛121期)や室井蓮太朗(徳島121期)、黒瀬浩太郎(広島123期)がブンブン駆ければ、青森コンビに対抗して太田竜馬(徳島109期)は番手捲りを用意するはずで、久米良(徳島96期)や片岡迪之(岡山93期)と追込型も揃ってなかなか層が厚い。九州は積極性十分な林大悟(福岡109期)と東矢圭吾(熊本121期)がレースを引っ張り、点数上位の小岩大介(大分90期)が好連係を目論んでいく。

A級の中心は前期S級で今期は早くも5Vを達成している池野健太(兵庫109期)。逃げ・捲り・追込と何でもこなすオールラウンダーで今開催もV最短は間違いない。一撃の魅力は127期生になり、2班ながら積極的な組立てで結果を残している池田充槻(秋田)と辻田祥大(三重)の二人は、予選はもちろん、準決でも十分勝ち負けになる存在だ。

実力差が無くV争いは混戦模様!!

S級 主力選手



小原太樹 神奈川 95期

グレードレースでも安定した走りで活躍する地元のエース。番手を回れば卒のない仕事ぶりでラインを機能させる。近年は青野将大ら多くの弟子を取り、川崎の一大グループを形成している。GⅢも制覇しているホームバンクとの相性も抜群で地元Vに期待がかかる。

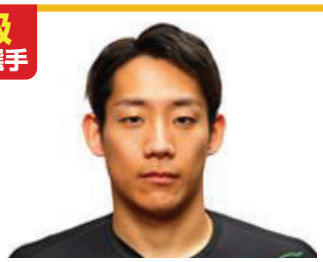
S級 主力選手



小林泰正 群馬 113期

的確な判断で柔軟な組み立てができる機動型。好位からの捲りが主戦法だが、しっかり長い距離が踏める地脚もある。今年のスタートは順調だったものの、落車によるケガに泣かされている近況だったが、直前の富山GⅡで決勝進出を果し弾みを付けての参戦になる。

S級 主力選手



太田竜馬 徳島 109期

9月別府F1では久々のV。決勝はラインの力を借りる番手捲りだったが、準決は地元の小岩大介の1着に貢献する先行での勝ち上がりだった。本来の動きにはまだ遠いが徐々に動けてきている印象で、今年初Vを手にし更に勢いを加速することも十分にあるはず。



A級 注目選手

池野健太 兵庫 109期

近年は不調に苦しんだ池野健太が今期はA級に陥落。しかし状態は上向きで、A級ではあるがすでに今期5Vと、力の違いを見せつけている。警戒されるが故に捲りに回されるケースが多いが、ここ一番の思い切りの良さも十分にあり、今シリーズのV候補筆頭だ。



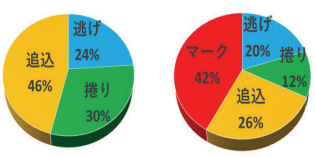
A級 注目選手

関根健太郎 神奈川 100期

ここ数年は苦戦が続いている現状だが、今シリーズは地元の中心としての参加。成績にムラはあるものの、自力基本に戦法の引き出しはなかなか広い。他地区からはかなり強力な相手が揃うが、総合力でカバーして活路を拓く。そろそろ再浮上のきっかけを掴みたい。

川崎競輪場バンクガイド（2024年1月～12月データ）

昨年1年間28開催・936レース(ガールズケイリンを含む)の川崎バンクの決まり手は右表の通り。昨年までのデータと逃げ・捲り・追込・マークのパーセンテージには大して変わりはないが、1着に限って言えば逃げ・捲りの決まり手は変わらず50%を超えているので、自力型のアタマから組み立てていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近のゴール前強襲は、選手たちも新バンクに慣れて徐々に出現率が高くなってきている感じであり、力のある追込型はたとえ後方に置かれたとしても、最終4コーナーから一気に巻き返す可能性もあり軽視出来ない印象だ。



【発行】川崎競輪　【監修】川崎サイクル